

【日々の研修コラム～単元研究会～】

7月21日(木)に、初任者研修の単元研究会を行いました。

本校の単元研究会は

- ①授業での学びの姿を見取る → 学びの質を捉える
- ②学習評価及び授業改善の実施 → 指導と評価の一体化
- ③単元の構想の改善及び教科等横断的な視点に立った資質・能力の評価・改善
→ 単元のまとめ、枠を越えた力を深める



という流れで行い

「本時の授業力の向上」

「単元全体の構成力の向上」

「枠を越えた力の指導力向上」

を短時間で効率的に考え、参加者も含めて次の授業力につなげたり、日々の単元から「教育活動の質の向上」を図ったりすることを目的としています。



【学びの姿を見取っている場面】



①では、学びの記録という授業の中での生徒や教師の言動について、目標を意識しながら、どのような姿が見られたかを読み取っています。その際、“黙読タイム”をとり、一人一人の先生方の学習評価する視点を高めながら、②において事実に基づく多面的な学習評価を実施しています。「何が身に付いたのか」をまず明確にすることで、授業改善の議論やその後の議論がブレのないようになり、多くのアイデアが出て、授業者だけでなく参加者にとっても学ぶ時間となりました。

【授業者の声】

- 授業を、そして生徒の学びを客観的にみていただいて、新しい気づきや自分の偏った見方に気づきました。今後の授業づくりで気を付けていきたいです。
- 単元で取り組んだ「体づくり運動」を今回で終わるのではなく、他教科ともつなげて、「継続」して伝えていくことが大切だと感じました。

